
大自然を生み出した偶然と代償

霧裂黒雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大自然を生み出した偶然と代償

【Nコード】

N3957Q

【作者名】

霧裂黒雨

【あらすじ】

自然を生み出すためには、これだけの偶然と代償がある・・・

廃棄工場

そこは古びた工場だった・・・

そこに一つの空間があった。

四角い空間だった・・・

大地に開いた四角い穴、そこに壁が作られ、天井が作られた。

出入り口はたった一つ・・・北側の壁の高さ50メートルほどに長方形の扉があるだけだった。

そこにはエレベーターがあったのだが、時が進むに連れてエレベーターは腐敗した。

工場に人がいたときは、そこは地下室倉庫として使われていた。

天窓は三つ・・・

天井と西の壁と東の壁である。

工場が古びた工場となったところ・・・

その空間には土しかなかった。

それは偶然なのか神のイタズラなのか、その土は栄養分が高か

った。

鳥が天井の片隅に巣を作り、親鳥が持ってきた種がいくつか零れ落ちる・・・

その種は厳しい状況下でも育つ木の種だった。

そしてまた偶然か神のイタズラか・・・

零れ落ちた種は風の運んできた栄養のある土に埋められ

天窓から種に向けて見事な角度で太陽の光が注いだ。

そして雨が種に水をやり、それが続いた・・・

いつしか・・・小さな森ができた・・・

ある日のことだった。

中学一年生ぐらいの少年が誤ってその空間に落ちた・・・

いくら少年が叫ぼう誰も来ず

いくら壁を登ろうとしても上れなかった・・・

やがて少年は餓死した・・・

少年が死んで三日後

その少年を探していた人間達によって見つけられた

もちろん手遅れだった。

少年を見つけた者達は少年の遺体を外に運ぼうとしたが

少年の親がそれを止めさせた。

そしてあることを言った。

「息子をこの森に捧げよう、この森は親父の世代からある森だ・・・

俺もここで遊んだ・・・いつか息子の肉体を吸収し、この森は成長するだろう・・・

私はこの森を息子だと思って守りたい・・・」

その少年の親は近くの町でも有名なお金持ちだった。

少年の親はお金を使って森を守るため色々な設備を施した・・・

それから100年後・・・

工場のあった場所かた古びた工場は消え、近くの町も消え

そのあたり一面に樹海ができた。その樹海を中心はかつてのあの
空間

そして

その空間から、無数の木が重なった巨大樹が立ち聳えていた。

それから千年後・・・

地球から人は消え、地球は大自然が支配した。

その大自然の中心はあの空間であつた・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3957q/>

大自然を生み出した偶然と代償

2011年1月28日16時22分発行